

【編集後記】

編集委員長 荒木 紀幸

「神戸親和女子大学大学院紀要」第二巻は心理臨床学専攻主任の丸島令子大学院教授の定年退職記念号です。大学院の開設に合わせてご着任され、4年間にわたって創設期の大学院の発展にご渾身され、基礎を作ってられました。先生の学内・外でのご功績をたたえ、かつ感謝の意を込めて、第二巻をご退職記念号として編集しました。お陰様で8編の原著論文を掲載できました。執筆された皆さまにお礼申し上げます。

この第二巻は編集委員会としては本年度内に発行したかったのですが、予算の執行の関係でやむを得ず発行が4月はじめとなりました。次年度は補正予算を立て、第三巻を18年度発行としたいと考えています。それにより本来の発行の姿となります。そのつもりで、会員の皆様におかれては論文執筆を少し早くから始めて頂きたいと思えます。また執筆に当たっては編集委員会が規定したレイアウトに沿って執筆して頂けますと、印刷、校正がスムーズに運びます。どうぞご協力方を宜しくお願いします。

編集委員 末田 啓二

本紀要の創刊より早や1年。この間にも社会はめまぐるしく変化した。

不易流行の格言どおり、常に変わらぬものの本質と道理とを求めるのが、研究者の本分とすれば、今日研究者に課せられている社会的責任は極めて重い。

投稿者諸氏のためまぬ努力と研鑽とに敬意を表すると共に、研究の更なる発展を期待する。

編集委員 丸島 令子

本紀要第二巻の発行までに、更なる「投稿要領」について、編集委員会で検討を重ねたりしました。巻を重ねるたびに充実して行き素晴らしいと思います。今回特別号の編集にあたり、編集委員の諸先生にお世話になり誠にありがとうございました。今後の一層の発展を期待してやみません。

編集委員 山崎 英則

年度内における大学院研究紀要の第二巻の発刊となりました。この紀要の頁を開いたとき、まず気づくことは、丸島令子教授の記念号であることです。丸島先生は神戸親和女子大学に大学院が設置されて以来、その分野でご尽力・ご活躍されました。現在、大学院での研究や教育が順調に推移し、それらが大きな大輪となって結実していることは、そのお陰であることは言をまちません。長い間、有り難うございました。そして、長い間、ご苦勞様でした。次に、目次に目をやると、気づくことは、バランスの取れた掲載になっていることです。なぜなら、教育学および心理臨床学の両専攻研究分野の教員からの寄稿となっており、そして、両分野の教員による指導論文のいくつかが掲載されているからです。そして、最後に気づくことは、両分野の教員による指導論文のレベルがあがっていることです。誇りに思うと同時に自慢できることであるため、本当にうれしい限りです。次回の第三巻以降も、ますます発展し続ける紀要であって欲しいと願う者の一人です。

表紙のデザインについて

うす緑の落ち着いた色調を背景に紺の帯に白抜きの神戸親和女子大学大学院研究紀要の横文字を配し、多くの研究を表す紺の緑の直線が未来に向けて伸びる構成となっている。このような色調と構図はさわやかさ・聡明さ・厳肅さ、大学院をベースとした発展と意気込みを象徴している。

神戸親和女子大学大学院研究紀要 第二巻

丸島令子教授定年退職記念号

平成18年3月31日 発行

編集者 神戸親和女子大学大学院研究紀要編集委員会

発行人 大学院研究科長 山根耕平

住所 〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1

神戸親和女子大学大学院合同研究室 078-591-1743

印刷 株式会社 柴原出版 078-871-4259